

交通事故に遭って

ペンネーム 光春

私は通勤中、歩道がない街中の坂道を歩行中、工事用トラックに後からはねられた。

その時、私は飛ばされ、道路上に叩きつけられたようだ。私はその時の状況を覚えていない。近所の人達の話では、すごい音がしたとのこと。

私は看護師で、長い髪をアップにしていたのにそれが取れてすごい音がしたとのこと。

私は右側を下に強い力で路面に叩きつけられたようだ。

私は自分の状態は知らなかった。

その後、病院に入院した。

相手の人の話しでは、「私が飛び出したのではねた。」と、言っていたとのこと。

私は飛び出してはいない。

その時、市の衛生公社の車が正面に止まっており、後で聞いた話では、その車の運転手さんが見ていて、「歩行者をはねて運転手は何をしているのか。」と言っていたとのこと。

その時運転手は、助手席の人と仕事の打ち合わせをしていて、衛生公社の車にぶつかると思い、歩行している人に気が付かなかった様子。

私は入院後、しばらくは自分で何も出来ず、母親が付き添ってくれた。一度はトイレ介助中に意識がなくなり大変だったとのこと。

私は頭も打っていたので、脳の症状が出て来たのだと思った。これで私は死んでいくのだと思った。

全身の痛みが強く、痛み止めの薬を飲むと胃の調子が悪くなり、食事することが出来なかった。また、動くとき痛みが強く、自分一人で生活が出来ない苦しい入院生活を送っていた。

入院から3か月位経った頃、検察庁から呼び出しがあり、初めて松葉杖を使って妹の介助で出掛けた。

右足も筋肉断絶があり、歩行は困難で、右手は打撲で使用できない状態を見てくれて、その後、何の返事もなかった。

その後、診断書が10日間だったことを知った。

入院が長くなり、相手が治療費を払うことが出来ないため、私の保険で治療して欲しいとの申し出があった。職場の保険にも加入していないとのことで、実費払いとなり、私に

請求書が来るようになり、私は収入なし、車の保険も50万円だけとのこと。

20歳の若さで他の保険に加入なしとのことで、治療費のみ会社が支払うと話しが決まり、私は退院に向けてリハビリを頑張った。

その後、1か月で退院した。母はもう少し自分のことが出来るまで病院にいて欲しかったとのこと。

私は、痛い、苦しい思いをしただけだった。

休業補償もなく、仕事も出来なくなり、職場も離れることになり、今でもあの時の後遺症で正座することも出来ず、傷跡も残っている。

私をはねた車の運転手は、4か月入院していたのに1回見舞いに来ただけだった。

今でも悲しい思いである。

事故に遭った時は、動くことも出来ず、本当に苦しく悲しい生活だった。

これからは、皆さんが交通事故を起こさないよう願っている。事故をした人もされた人も悲しい思いをする。

楽しみにしていた何もかも失ってしまう。交通事故のない毎日を願っている。

